

令和5年度「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム】

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海

1. 事業の概要

事業名称	在日ブラジル学校におけるキャリア形成に向けた日本語教育広域連携プロジェクト
日本語教育活動に関する特定のニーズの実情や課題	国内のブラジル学校（2022年4月現在、ブラジル政府認可36校）に在籍する生徒のほとんどは卒業後も日本での生活を継続しているが、在学中に日本社会で社会人として活躍するために必要な日本語力を身につけられていないため、日本企業に正社員として雇用されるケースは非常に稀で、非正規雇用やニート、フリーターとなってしまう若者が多かった。これには、日本語の授業時間数が短い（多くが週に1時間程度）ことや、専門家による授業を受けられていないこと、保護者の多くが非正規雇用であることから卒業後の自身のキャリアをイメージすることが難しく、日本語習得に関する必要性が感じられにくいこと等、様々な要因があった。これらの課題に対し、令和3,4年度の委託事業では日本語教育の専門性によるカリキュラム作成や教材選定、週に4時間以上の日本語指導とキャリア教育を行なったことにより、日本語力やその学習意欲、大学進学等への意識が向上したことがわかった。これらをモデル校1校にとどめず、他校へと展開していくことが次の課題であった。
事業の目的	在日ブラジル学校に在籍する生徒が、日常生活を円滑に過ごす上で必要な日本語及び日本語でも自身のキャリアを考えられる力を身につけ、卒業後も日本社会で活躍できる人材に育つ（注）ための日本語教育環境の充実を目的とする。その中で、令和3,4年度事業の成果を通じて、専門家による日本語指導、キャリア形成のための社会見学・企業インターンシップ、地域社会との連携構築に取り組んだ。
事業内容の概要 （課題をどのように解決したのか、どのような点が先進的な取組であったのか分かるように記載）	（取組1）運営委員会では、関係者及び外部有識者を構成員とする運営委員会を開催し、本事業全体の企画・運営・進捗等について議論・検討した。 （取組2）卒業後のキャリア形成に向けた日本語教育プログラムでは、ブラジル学校（中等課程＝高校相当）を卒業後の進路・進学に向けて、自身のキャリアを考える機会を設けるとともに、希望する進路・進学に要する日本語力等を身につけるための日本語教育を実施した。 （取組3）在日ブラジル学校と地域社会とのネットワーク構築では、本事業を実施するブラジル人学校のある豊田市を中心とする愛知県内の関係者と、今後のブラジル学校と地域社会の連携のあり方等について議論するとともに、関係者と顔の見える関係構築の機会とした。 （取組4）在日ブラジル学校における日本語教育担当者との共同実践研究では、2021, 2022年度に実施してきたブラジル学校におけるキャリア形成に資する日本語教育のノウハウを、他のブラジル学校関係者と共有するとともに、各学校のおかれた状況等に応じた、日本語教育等の今後の展開について検討した。
事業の実施期間	令和 5 年 8 月 ～ 令和 6 年 3 月 （ 7 か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営等委員会

実施体制	構成員の人数：10名 構成員の主な属性や専門性：自治体職員（多文化共生／日本語教育担当）、学識者（継承語教育）、外国人雇用企業担当者、日本語教師、ブラジル学校運営者等 運営方法：対面1回、オンライン2回
------	--

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	当該地域の自治体職員、外国人雇用企業担当者には運営委員として事業全体に関与のうえ、キャリア教育の一環でゲスト講師を務めてもらった。 また、県内外3校のブラジル学校には、共同実践研究会に参加してもらい、授業見学や意見交換を行った。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

実施体制	● 事業全般を通じて、コーディネーター2名（土井・山家）が方針や基本的な内容等を企画した。 ● コーディネーターの企画案を運営委員及び日本語指導者等、各事業の協力者と相談し、詳細を決定した。 ● 令和3,4年度に日本語指導者を務めた松村がコーディネーターを兼務し、他の日本語指導者・講師と共に日本語教育カリキュラムや教材等の作成及び日本語指導にあたった。 ● コーディネーターの土井・柳田が協力校との連携を通じて、互いの日本語教育ノウハウの共有等、共同実践研究を行った。 ● コーディネーターの土井・山家がシンポジウムを企画し、本事業の取り組みの成果等を広く周知した。
------	--

3. 各取組の報告

運営等委員会の設置 【名称：運営委員会】			
取組の目標	多様な立場・観点から事業全体の運営基本方針について議論し、進捗状況を確認・共有しながら、適正に事業が遂行されるようチェック及びサポートをする。		
内容	第1回（2023年10月5日） 内容 参加者自己紹介、2023年度事業説明、意見交換 第2回（2024年1月24日） 内容 2023年度事業進捗状況説明、2023年度事業今後の予定、意見交換 第3回（2024年3月14日） 内容 2023年度事業進捗状況説明、2023年度事業今後の予定、意見交換		
本取組により検討された事業の方針や特定のニーズに対応した日本語教育の方向性	・ブラジル学校における日本語教育の重要性は今後さらに高まる ・単に日本語のレベルを上げるだけでなく、進路・進学に関する目標設定が重要 ・これらの取り組みを安定的・継続的に実施するためには、日本語教育推進法に基づいた公的な日本語教育機会の保障が必要不可欠		
実施期間	令和5年10月5日 から 令和6年3月14日 まで	開催時間・回数	1回 2時間 × 3回 = 6時間

特定のニーズに応じた日本語教育の実施 【名称：卒業後のキャリア形成に向けた日本語教育プログラム】			
取組の目標	在日ブラジル学校在籍者が、卒業後の自身のキャリア（進路・進学等）を描けていること、さらに希望するキャリアに近づくための日本語コミュニケーション力等を備えている状態を目指す。		
内容	キャリア教育：職業の適性について、学校紹介、大学訪問、他 日本語教育：自己PR、防災、交通機関の利用方法、他 * 詳細は「別紙1 2023年度 日本語教育カリキュラム」参照		
取組による特定のニーズに対する工夫	・キャリア教育では、文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」を参考に、「キャリア」を広義に捉え、進路・進学以前に、自己理解や日本での暮らしに関する現状把握などを丁寧に行った。 ・また、来日間もない生徒等への配慮として、ゲスト講義はポルトガル語を介して行った。 ・日本語教育では、キャリア教育で学んだことを日本語で表現できるようになることを心がけた。 ・また、防災学習施設や大学訪問等、課外授業も多く取り入れた。		
実施期間	令和5年10月16日 から 令和5年12月21日 まで	授業時間 ・コマ数	1回 1.5時間 × 40回 = 60時間

対象者	エスコラ・ネクターの中学・高校生クラス在籍者			参加者	総数 14 人 (受講者 11 人、指導者・支援者等 3 人)					
日本語教育の言語技能とレベルについて	文化庁「日本語教育の参照枠」 基礎段階の言語使用者「A2」レベル（各技能共通）									
日本語教育の対象とする生活上の行為について	I 02(05) 災害に備え, 対応する VI 07(10) 電車, バス, 飛行機, 船等を利用する), 08(12) 徒歩で移動する, 11(22) 就職活動をする VII 14(31) 人と付き合う, (32) 異文化を理解する IX 18(38) 生活設計をする, 19(39) 学習する, (43) 日本について理解する, 20(44) 余暇を楽しむ X 21(46) インターネットを利用する									
使用した教材・リソース	文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」 文化庁「日本語教育の参照枠」 文化庁「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案									
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			10					1		1
	* 11 名中 1 名はペルーと日本のハーフ									

（１） 特徴的な活動風景（２～３回分）

取組事例①

【第 14 回 令和 5 年 11 月 7 日】

名古屋外国語大学を訪問。３・４年生対象の「多文化共生計画演習」にゲスト講師として参加。

- ・ 山家ヤスエ氏によるブラジル学校に関する基礎講義
- ・ エスコラ・ネクターの生徒たちによる学校紹介
- ・ 同、生徒たちによる学校で流行っている遊びの紹介
- ・ 大学生とのフリーディスカッション



取組事例②

【第 25 回 令和 5 年 11 月 29 日】

豊田市国際まちづくり推進課の近藤裕里氏によるゲスト講義。

- ・ 近藤氏の自己紹介（自身のキャリアについて）
- ・ 豊田市の紹介
- ・ 豊田市でのさまざまな仕事について
- ・ 質疑応答



(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

11名中、開始時と終了時両方の自己評価の回に出席した5名について、コース開始前後を比較した。

		いつも	時々	あまりない	全然ない
生徒A	コース前	10	2	0	0
	コース後	10	2	0	0
生徒B	コース前	1	8	3	0
	コース後	1	8	3	0
生徒C	コース前	6	5	1	0
	コース後	6	5	1	0
生徒D	コース前	5	5	1	1
	コース後	3	4	4	1
生徒E	コース前	7	4	1	0
	コース後	8	3	1	0

①キャリアの自己評価

5名の生徒のうち、3名の結果は数字上では変化が見られなかった。残る2名のうち、1名は「いつも」と答えたものが7から8に増加し、「将来」のキーワードを含む項目がすべて「いつも」の評価に変化した。もう1名は、「いつも」と答えたものが5から3に減少し、「将来」のキーワードを含む項目など、3つの項目の評価が「あまりない」に変化した。

②日本語の自己評価

5名の生徒のうち、生徒Aだけが「できる」の評価が減少し、「まあまあ」の評価が増加する結果となった。他の4名は全員「難しい」が減少し、「できる」の評価が増加していた。この4名は一人ずつ、詳細に結果を見ても、「難しい」が「まあまあ」になっていたり、「まあまあ」が「できる」になっていたり、コース前とコース後で、明らかな評価の向上が見られた。

		難しい	まあまあ	できる
生徒A	コース前	1	7	33
	コース後	1	11	29
生徒B	コース前	26	11	4
	コース後	22	9	10
生徒C	コース前	32	8	1
	コース後	11	21	7
生徒D	コース前	29	12	0
	コース後	24	15	2
生徒E	コース前	2	22	17
	コース後	0	16	25

また、以下のものをポートフォリオとして各自、収集した。

- ・講師が配布したワークシート
- ・各種発表原稿
- ・制作した学校紹介動画、他

(3) 今後の改善点について

- キャリア教育では、文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」を参考に指標の作成と評価を行ったが、これがブラジル学校の生徒に対して適当であるかどうかの専門的判断が困難であることから、同手引きのアレンジの仕方や、他の評価指標についても引き続き検討が必要。
- 日本語教育においても同様に、文化庁「日本語教育の参照枠」がブラジル学校の生徒に対して適当であるかどうかの専門的判断が困難であることから、同手引きのアレンジの仕方や、他の評価指標についても引き続き検討が必要。
- キャリア教育も日本語教育も、指標の活用や授業のノウハウについて、校内での他の教師との共通認識を高めることや後進の育成が必要。
- また、他のブラジル学校や外国人学校への展開時に、どのようなアレンジ等が必要かも検討が必要。

取組の成果の発信

【名称：在日ブラジル学校と地域社会とのネットワーク構築】

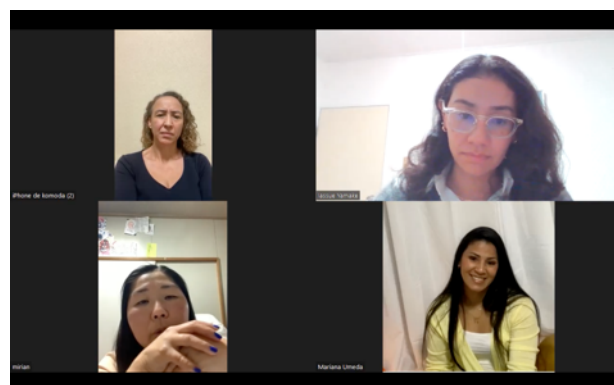
取組の目標	エスコラ・ネクターは、これまで学外の地域コミュニティや公的機関等との関わりが希薄であり、豊田市内にあって孤立した存在であると言える。今後の学校運営を地域に開かれたものとし、在籍児童生徒はもとより、教職員を含め日常的に日本語でのコミュニケーション機会を充実させるためにも、市内関係者・団体との関係構築を目指した。 計8団体との意見交換と2回の公開シンポジウムを開催し、その成果や今後の展開等を発表した。
内容	1) ネットワーク会議 第1回 株式会社メイドー 日時：2023年11月8日（金）10:00～12:00 場所：株式会社メイドー本社内 内容：日本語教育及びキャリア教育の現状と課題、今後の連携の可能性 参加者：長谷川裕恭氏（会長）、林佳奈子氏（人事総務部）、山家ヤスエ氏・小田レチシア氏（NP0 法人希望の光） 第2回 精華学園高等学校国際パシフィック名古屋校 日時：2024年2月13日（火）16:00～18:00 方法：オンライン（Zoom ミーディング） 内容：国際パシフィック名古屋校の特徴について、第5回共同実践研究会について 参加者：北垣明希氏（入試広報課課長）、林靖氏（教務課主任）、土井佳彦 2) 公開シンポジウム 第1回 在日ブラジル学校関係者向けシンポジウム（ポルトガル語） 日時：2024年2月22日（木）20:00～22:00 方法：オンライン（Zoom ミーディング）

		内容：オープニング：趣旨説明、パネルディスカッション、質疑応答・意見交換 参加者：15名 第2回 在日ブラジル学校支援者向けシンポジウム（日本語） 日時：2024年3月10日（日）17:00～19:00 方法：オンライン（Zoom ウェビナー） 内容：趣旨説明、基調講演、エスコラ・ネクターの紹介、ネクターにおける日本語教育、パネルディスカッション 参加者：当日50名、録画配信総再生回数390回（2024年3月25日時点）	
取組による特定のニーズに対する工夫		・対象者に応じて、ポルトガル語と日本語に分けて開催した ・日本語については、より多くの人に見てもらえるよう、録画配信を行った。	
実施期間	令和6年2月22日 から 令和6年3月29日 まで	時間数	1回 2時間 × 4回 = 4時間
対象者	どなたでも	参加者	総数65人（録画配信総再生回数390回）

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

取組事例①

【第1回 令和6年2月22日】 ・開会あいさつ、趣旨説明等 NPO 法人希望の光・山家ヤスエ ・パネルディスカッション ファシリテーター：菅野アナ・カロリナ氏（NPO 法人希望の光） 1. 今、ブラジル学校の先生たちが教室で直面している課題とは？ 2. 解決策を考えてみよう。 ・意見交換・質疑応答



取組事例②

【第2回 令和6年3月10日】 ・開会あいさつ、趣旨説明、諸注意 NPO 法人多文化共生リソースセンター東海・土井佳彦
--

- ・基調講演「言語と私」 愛知県立御津あおば高等学校 英語教員 伊木ロドリゴ氏
- ・ブラジル学校「エスコラ・ネクター」のご紹介 NP0 法人希望の光 代表理事 山家ヤスエ氏
- ・エスコラ・ネクターにおける日本語教育の取り組み 日本語教育コーディネーター 松村月音氏
- ・パネルディスカッション・参加者との質疑応答 伊木氏、山家氏、松村氏（進行：土井）



（２）目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

- ネットワーク会議については、自治体関係者が運営委員のメンバーでもあったため、その中で今後の連携・協力等についても話ができたが、別途開催しなかったが、大学や企業等との会議が調整できなかったため、次年度以降に開催したい。
- シンポジウムについては概ね予定通り開催でき、参加者から好評を得られた。
- 上記を通じて、ブラジル学校への理解と関心を高めることができた。

（３）今後の改善点について

- ネットワーク会議については、早めに関係者との日程調整を行うこと。
- シンポジウムについては、事業報告という点から年度末になってしまうが、より参加しやすい時間帯を検討したい。また、予算と時間があれば、同時通訳をつけることも検討したい。

任意の取組

【名称：在日ブラジル学校における日本語教育担当者との共同実践研究】

取組の目標	令和3,4年度にエスコラ・ネクター（豊田市）で実施した「在日ブラジル学校におけるキャリア教育及び日本語教育」の実践から得られた成果やノウハウを、同じく日本語教育環境の充実に取り組む他の在日ブラジル学校3校に共有し、それぞれの実践や今後の充実に向けて議論する場を設けるとともに、関係者の継続的な学び合いの場としてのネットワークを構築した。
内容	①共同実践研究会議 時間：2時間×7回 方法：ハイブリッド4回（授業見学後）、オンライン3回 内容：各校の日本語教育の現状・課題、今後の改善策 ②授業見学 時間：1時間×4回

	方法：対面 内容：中等課程以上の日本語クラスを見学（終了後、共同実践会議）		
取組による特定のニーズに対する工夫			
実施期間	令和5年10月11日から 令和6年3月21日まで	時間数	1回 2～3時間 × 7回 = 15時間
対象者	エスコラ・ネクター、 EAS、HIRO学園、サンタナ学園関係者	参加者	総数 12人

(1) 特徴的な活動風景（2～3回分）

取組事例①

【第4回 令和6年2月21日】

- ・HIRO学園 学校訪問
- ・日本語授業見学
- ・意見交換

* 詳細は別紙「240221_第4回共同実践会議議事録」を参照

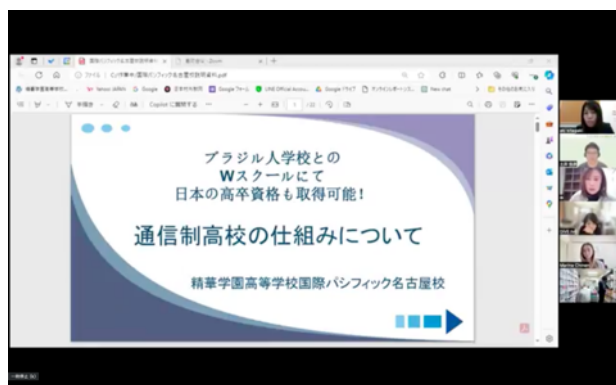


取組事例②

【第5回 令和6年2月28日】

- ・精華学園高等学校国際パシフィック名古屋校（通信制高校）の紹介
- ・意見交換

* 詳細は別紙「240228_第5回共同実践会議議事録」を参照



(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

- 回数、時間数、協力者等については、予定通りに実施できた。
- 内容については、議事録にあるとおり、日本語教育に限らず学校運営に関わる幅広い論点について参加者間で活発な意見交換がなされ、十分な相互の学び合いができた。
- 今後もこのような機会を継続して実施していきたいという意見で一致して終えることができた。

(3) 今後の改善点について

- 今回の出席者は主に学校運営に関わる立場の人が中心であり、特に授業見学においては日本語教師の参加がほとんどなかった（会議に出席するためには授業や他の仕事を休まないといけなかったため）。
- 今後は再度日程調整を工夫し、日本語教師間の学び合いの機会を設けていきたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

在日ブラジル学校に在籍する生徒が、日常生活を円滑に過ごす上で必要な日本語及び日本語でも自身のキャリアを考えられる力を身につけ、卒業後も日本社会で活躍できる人材に育つ(注)ための日本語教育環境の充実を目的とする。その中で、令和3,4年度事業の成果を通じて、専門家による日本語指導、キャリア形成のための社会見学・企業インターンシップ、地域社会との連携構築に取り組んだ。

(2) 特定のニーズの充足に向けて試行した方法

- モデル校であるブラジル学校（エスコラネクター）における日本語教育とキャリア教育を複合的に捉えたカリキュラムを作成し、授業を実施した。
- 特にキャリア教育においては、ゲスト講義や課外授業（公共交通機関の利用や大学訪問等）で実践的な内容を取り入れた。
- それらについて、他のブラジル学校3校とも7回の共同実践研究会を通じてノウハウを共有した。

(3) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

- 日本語教育とキャリア教育を複合的に捉えたカリキュラムの作成や基礎となる教材等の選定、自己評価シートの作成等、ブラジル学校における日本語教育の充実に資する成果物を複数作成することができた。
- 愛知県内外の4校のブラジル学校でノウハウを共有でき、また今後も継続して学び合えるネットワークを構築することができた。
- シンポジウム等を通じて、多くの方からブラジル学校への理解と関心を高めることができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果等

- 自治体と一部の外国人雇用企業については、会議やゲスト講義等を通じてブラジル学校における日本語教育に理解と協力を示してもらうことができた。
- 具体的な連携実施にまでは至らなかったが、シンポジウム等を通じて、日本の学校関係者からも学生ボランティアの派遣等、提案をいただくことができた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- シンポジウムについては各種ウェブサイトやメーリングリスト、SNS 等を通じて広く参加を呼びかけ、実施後も録画配信をするなどして周知に努めた。
- その他の取組は基本的にブラジル学校関係者間でのものであったため、日々の活動については周知・広報することはなかったが、当団体のブログや SNS を通じて適宜発信に努めた。

(6) 今回のプログラム実施を通して得られた知見やノウハウ

- 日本語教育とキャリア教育を複合的に捉えたカリキュラムや基礎となる教材、自己評価シート等、ブラジル学校における日本語教育の充実に資する成果物を複数作成することができた。
- ネットワーク会議を通じて、外国人雇用企業や通信制高校との連携を今後も継続発展していく関係性を構築することができた。
- 共同実践研究会を通じて、各ブラジル学校における運営及び日本語教育に関するノウハウ等を得ることができたとともに、今後も学び合うことのできるネットワークづくりができた。

(7) 改善点、今後の課題について

- 日本語教育及びキャリア教育については、目標とする大学等への進学や正社員としての就職に至るまでには数年間の継続した取組が必要不可欠であるため、本事業を通じて得たノウハウ等をもとに、今後も実践を重ねていく必要がある。また、そのための予算や人材の確保にも努める必要がある。
- 本事業では4校のブラジル学校と共同実践研究に取り組んだが、各校の理念や目標、置かれている状況等がさまざまであるため、それぞれのノウハウをそのまま活かすことが難しく、各校に合わせてアレンジしていく能力が必要になる。
- さらに、他のブラジル学校やブラジル以外の外国人学校への展開においては、慎重かつ長期的な取組が必要であることがわかった。